

JMDPを介した非血縁者間ドナーリンパ球輸注の治療成績（2007年度解析）

Outcomes of unrelated donor lymphocyte infusion facilitated by the Japan Marrow Donor Program

森慎一郎 岡本真一郎 及川耕造 尾上裕子 北澤京子 高橋聡 田中淳司 平岡諦 廣川誠 堀越泰雄 宮村耕一 土田昌宏

骨髓移植推進財団・医療委員会

【目的】わが国における非血縁者間ドナーリンパ球輸注 (unrelated donor lymphocyte infusion; uDLI) の有効性と安全性を検討する

【対象】2000年2月～2005年12月までに骨髓移植推進財団を介して uDLI が実施された176例中、100日後経過報告書が提出された144例

【定義】有効：uDLI 単独で寛解（血液学的、細胞遺伝学的、分子生物学的）が得られた例、判定不能：DLI 後寛解が得られたが、平行して化学療法などの併用療法が実施されており uDLI 自体の効果が不明な例、無効：uDLI 後も非寛解例、増悪例、短期（30日以内）死亡のため原病の評価が不可能な例とした

【結果】uDLI の実施理由は原病再発が128例と最多であり、AML56例、ALL21例、MDS21例、CML20例、リンパ腫8例、ATL2例であった。AMLでは有効5（血液学的3、細胞遺伝学的1、分子生物学的1）、無効42、判定不能9例と一部の例で有効であったが、ALLでは有効0、無効14、判定不能7例と明らかな有効例は認められなかった。MDSでは有効1、無効16、判定不能3例であったが、併用療法によって判定不能とされた2例が100日経過時点で寛解生存中であった。CMLでは有効6、無効6、判定不能8例であり、特に細胞遺伝学的再発例では、9例中4例が有効であり、無効例は3例であった。BLPD に対する uDLI は5例であり、有効例は1例であったが、無効でBLPDによる死亡が2例みられたほか、GvHD による死亡例が2例みられた。混合キメラに対して実施された例は11例あり、効果を認めた例が3例あったが、GvHD による死亡例が2例みられた。

【結論】急性白血病及びMDSに対するuDLIの効果は極めて限定的であるが、CMLに対する効果は比較的良好である。BLPDや混合キメラに対するuDLIは一定の効果を認めるものの、GvHDによる死亡の克服が課題である。